

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 東京コンサーツ
公演団体名	一般社団法人 伶楽舎

内容
<p>(1) 全員を対象とした解説と体験</p> <ul style="list-style-type: none">・ 雅楽の歴史や使用される楽器を簡単に説明する・ 洋楽で使われる五線譜ではなく、雅楽の縦書きの楽譜を取り上げ、右手で拍子を取りながら雅楽学習の基本である「唱歌」を一緒に歌う・ 雅楽の拍子のとり方を知るため、打楽器の打ち方を指導者の動作を真似て一緒に行う・ 舞楽の舞の振付の一部を体験し、舞楽の舞の特徴を知る <p>(2) グループに分かれての体験</p> <ul style="list-style-type: none">・ 打楽器（鞆鼓・太鼓・鉦鼓）のグループごとに楽器を体験する（楽器数に限りがあるため、体験できる人数は90名程度。ワークショップの参加人数が体験人数を超える場合は、体験しない他の児童生徒にも分かるように指導する）・ 他の児童生徒の唱歌に合わせて、打楽器体験の代表者が打楽器を演奏する。

タイムスケジュール（標準）
9:00～10:15 搬入・仕込み・リハーサル
10:15～10:30 生徒児童入場
10:30～12:05 ワークショップ
12:05～13:00 撤収

派遣者数
6名（指導者5名、スタッフ1名）

学校における事前指導
<p>●事前指導不要</p> <p>●唱歌の学習で使用する「越天楽」の楽譜を前もってお送りします。印刷の上、ワークショップ当日、児童生徒全員に配布してください。</p>

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 東京コンサーツ
公演団体名	一般社団法人 伶楽舎

演目
<p>「伶楽舎 子どものための雅楽コンサート」（途中休憩 15 分含み、全体で 90 分）</p> <p>■第1部 雅楽ってなあに？（45分）</p> <p>①雅楽の楽器の音をきいてみよう（楽器紹介）</p> <p>②唱歌（しょうが）で「越天楽（えてんらく）」を歌ってみよう</p> <p>③演奏をきいてみよう</p> <p>雅楽古典曲 管絃「平調音取」「越天楽」、「陪臚」（中学校のみ）</p> <p>④舞楽をみよう 雅楽古典曲 舞楽「陵王」</p> <p>⑤雅楽で他の曲もきいてみよう</p> <p>各学校の校歌[雅楽編曲版]（小・中学校）、わらべうた（小学校のみ）</p> <p>■第2部 日本昔ばなしと雅楽</p> <p>小学校＝語り付き創作雅楽作品「ポン太と神鳴りさま」（芝祐靖作曲・脚本）</p> <p>中学校＝語り付き創作雅楽作品「踊れ！つくも神～童子丸てんてこ舞の巻～」（伊左治直作曲・脚本）</p>

派遣者数
<p>笙 3、箏 3、龍笛 3、琵琶 2、箏 2、鞆鼓、太鼓、鉦鼓、舞人、語り 計 18 名</p> <p>【出演予定メンバー】伊崎善之、石川 高、五月女愛、笹本武志、野護元、須崎時彦、田口和美、田島和枝、谷内信一、田淵勝彦、角田眞美、東野珠実、中村かほる、中村華子、中村仁美、野田美香、平井裕子、三浦礼美、宮丸直子、村岡健一郎、國本淑恵</p> <p>スタッフ；2名</p>

タイムスケジュール（標準）					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
10時	10時～12時	13時～15時	5-10分	15時～16時	16時

実施校への協力依頼人員
<p>ご担当の先生、及教職員の方による、使用備品のご用意、楽屋のご用意</p>

演目解説

■第1部 管絃の「越天楽」は、最もよく知られた雅楽古典曲で、小中学校の教科書にも取り入れられていることから選曲。初めて雅楽を聴く人に一番に知ってもらいたい曲。中学校公演では「越天楽」以外の曲も知ってもらうため、「越天楽」との違いが分かりやすい「陪臚」（ばいろ）も取り上げる。現代と古典との距離感を少しでも縮め雅楽に親しみを感じてもらうため、また、雅楽楽器の可能性を知ってもらうため、子どもたちがよく知っている校歌を雅楽楽器で演奏する。舞楽は動きのある一人舞を選択。これまで「還城楽」「陵王」「胡飲酒」を上演しており、令和三年度は「陵王」を上演。

■第2部 ●語り付き創作雅楽作品

伶楽舎音楽監督・芝 祐靖が現代の子どものために創作した作品。語りを軸に随所に雅楽の音楽が挟み込まれており、情景描写、情緒表現等すべて雅楽の楽器で表現されています。ゆったりした古典的な曲調だけでなく、軽快でアップテンポな曲調も取り入れられており、現代の子どもたちが自然と雅楽の響きに親しめるような構成になっています。子どものみならず、雅楽を初めて聴く大人にも好評の作品です。

「ポン太と神鳴りさま」（ぽんたとかみなりさま）＝主人公のポン太が、高く伸びたナスの木にのぼり、雲の上で雷さまに会う、というストーリー。初演以来各地で演奏しており、2010年にはニューヨークの小学生を前に英語版でも演奏しました。

雅楽の様式化された曲調やテンポは、現代の子どもたちが日常接している音楽とはかなり異なっているため、長時間、古典だけを聴くのでは飽きてしまう。そこで、第2部では物語の展開を楽しみながら、知らず知らずのうちに雅楽の響きに親しむことができるように創られた特別な雅楽作品を上演。古典の響きをベースに、効果音の全てまで雅楽楽器で表現した本作品は、子どもだけでなく雅楽を初めて聴く大人（保護者）にも雅楽入門に適した作品。中学生の公演では、今回初めて伊左治直作曲の「踊れ！つくも神～童子丸てんてこ舞の巻～」を取り上げる。楽器そのものが登場人物となることで、興味や愛着をもってもらえることを考えたという伊左治氏自身の脚本によるが、子どもたちがこの作品を通して、雅楽に親しみを感じることを期待している。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

●ワークショップでは、洋楽で使われる五線譜ではなく雅楽の縦書きの楽譜を見ながら、雅楽の楽器の伝統的な習得法である「唱歌」を、拍子を取りながら一緒に歌う。雅楽のリズムパターンや打ち方を知るために打楽器の打ち方を指導者の動作を真似て一緒に行う。舞楽の舞の振付の1つか2つを実際に身体を動かして覚え、舞楽の舞の特徴を知る。管楽器3種と打楽器3種を実際の楽器で体験する。

●本公演では、ワークショップで学んだ「唱歌」を復習し、「越天楽」のメロディーをしっかり覚える。ワークショップで打楽器を体験した児童生徒の代表者が舞台にあがって、「越天楽」の演奏に参加する。わらべうたや校歌を雅楽楽器の伴奏で歌う。

児童生徒とのふれあい

- 「越天楽」の唱歌をいっしょに歌います。
- 子どもたちの代表者が舞台にあがって「越天楽」の演奏に参加します
- 子どもたちに最も身近な曲＝校歌を、雅楽楽器の伴奏で歌います。
- 雅楽演奏家が子どもたちの質問に答えます。

